

**久留米広域連携中枢都市圏  
平成30年度 ビジョン懇談会 経済成長のけん引分科会  
議事録**

(1) 日 時：平成30年11月22日（木）14：00～15：50

(2) 場 所：久留米シティプラザ 5階 大会議室

(3) 出 席：＜ビジョン懇談会「経済成長のけん引分科会」委員＞

世利洋介委員、原文雄委員、黒沼清寿委員、實藤俊彦委員、上野秀幸委員、  
平田敬一郎委員、森山有希子委員、石橋広通委員、藤田豪太郎委員、  
鯉谷彰委員、緒方伸州委員、松田裕次委員、大峯徳之委員、  
神代眞澄委員（代理）、古賀裕俊委員

＜事務局＞

吉田秀一広域行政・シティプロモーション担当部長

（広域行政推進課）土居美佳課長、山下泰利主査、竹下佳奈主任主事、猪口徹

＜ワーキンググループ職員＞

(4) 欠 席：＜ビジョン懇談会「経済成長のけん引分科会」委員＞

穴見英三委員、米倉久喜委員

(5) 次第及び議事：

〔○…委員質問・意見 ●…事務局等回答〕

**1. 開会**

事務局土居より挨拶。本日の会議の趣旨、進め方等について説明。

以下、議長は規定により 世利 洋介 分科会会長。

**2. 内容**

**(1) ビジョン懇談会の活性化について**

●現在の懇談会は委員の数も多く、会議の趣旨である委員の皆様のご意見を十分にお聞きするという事が出来ていない。委員の皆様を訪問させていただき、会議の進め方についてご意見を伺った中で、重要なテーマについて少人数で議論を深められるような“小分科会”を設置してはどうかというような提案をいただいた。この設置案について、あるいは議論すべきテーマなどについて、委員の皆様のご意見をお伺いしたい。

なお、先日もうひとつの分科会を開催したが、その際には、行政が行っている各ワーキングに懇談会の各委員が参加するような形はどうかというご意見をいただいた。これについてもご議論いただきたい。

○以前、定住自立圏をやっていた頃は分科会が無く、委員の数は15～20人程度だった。ただ、その頃も、やはり意見が出にくい雰囲気、それで分科会を設置したという経緯がある。今回、新たに小分科会を設置する案、あるいは、行政のワーキングに参加する案など出ている。委員の皆さんのご意見をお伺いしたい

○各委員は所属する組織や業務の専門分野の立場で参加しているが、ビジョンの取組内容は多岐に渡っている。その中で私たちが中身を理解して意見を言えるのは、どうしても限られた分野になってしまう。それ以外の分野だと、一市民の意見としてだったら言えるが、専門の委員のいる前で発言するような場でもない。更なる分科会を作るとの事だが、さあどうしようかという所から始めると時間もかかるので、行政側である程度基本的なところはまとめてもらい、それに対して、専門分野の委員が意見を述べるというスタイルにすれば、意見も活発に出て、事柄も早く進んでいくのではないかと。もう少し細分化するというのは、いい方法だと思う。

○ビジョンの中で、我々が委員として関与できる分野はどうしても限られてくる。私のいるところは、課題については市の関係者と議論しながら事業を進めている。別の分科会で出たという、行政のワーキングに我々も参加して議論をしながら進めるというやり方は、効率的でもあり、私も賛成である。やるなら、テーマを絞った小分科会という形式の方が、その専門分野の委員として発言しやすくなるので、効率的でもあり、会議の活性化にもつながると思う。

○小分科会設置については、私も提案したので、取り上げていただいてありがたい。私がやっている「観光」については日々刻々状況が変わっていく。国の政策、県の事業など次々に出てくるので、やっとならぬ感じがする。小分科会設置については、できれば年1回ではなくて回数を増やした方が、実施に向けた動きが出来て、よりいいのではないかと。思う。

○皆さんの意見をまとめると、行政も入った分野別のワーキングを小分科会として設置し、そこに我々も入って意見交換を行う。また、実施に向けた議論まで進め、ある程度調整して全体会に諮る。そういう事でよろしいか。

どういう段取りで、どういうテーマ・ワーキングでというところについて、今の段階で結構なので、事務局から何かあるか。

●テーマや分野についてはいろいろな切り口があると思うので、検討させていただき、今後整理を行いたい。

●行政が行っているワーキンググループが7つあり、まずは我々の方で一旦当てはめてみてほしいかと思う。例えば金融機関の委員もいらっしゃるし、いずれかのグループにはめ込んでしまうのではなく、複数のグループに入ってもらっていただくことも考えられる。一旦案をお示しすると同時に、委員の皆様方からこういう分野が得意であるとかご教示いただいたり、あるいは、観光の分野だと他の分野との関連が出てきたりして、そういうところを調整していくことになると思う。

また、行政のワーキンググループメンバーにとっても初めての試みとなるので、内部でも十分話し合っけて進めていきたい。

今の委員の皆様がご異動等で代わられる次期も考慮し、今年度中には、一旦案をお示ししたい。

○現在2つの分科会に分かれているが、境界を超えたワーキングも作られると考えてよいのか。

●柔軟な組織が良いので、一旦フラットに落として考えていいと思う。

## (2) 連携事業について

### ①各委員の専門分野での現状やトレンドについて

●委員の皆様が所属する団体での取組事例や力を入れている事業、又は、業界での最近のトレンドなどについてお話いただき、今後事業を進める際の参考にさせていただきたい。

○農業においては、高齢化、就業人口減少といったところが現状。そのような中、地域の農業づくりと合わせて地域づくりにも取り組んでいる。久留米市の農業は県内1位、全国で見ても上位にランクされる。農業者は市街化区域以外に住んでいるケースが多いので、地域の活性化に取り組む意味は大きい。連携中枢の構成市町は、筑後川中流域という川と農地に恵まれた環境にあるが、これを生かして定住促進ができるようなシステムを作れると良いかと思う。本日の委員には鉄道事業者の方がいらっしゃるが、ローカル駅の活性化について、一緒に盛り上げていければと思う。

○資料7番にある新規就農支援事業について、私の考えを述べたい。平成29年度、県全体の新規就農者は250人、その内新規参入者は108人で43%、その内約8割が野菜作りを選んでいる。相談者は、定年退職後農業をやってみようという人が約半分、後は20代~40代で、農業で生活していくため。野菜作りが多いのは、畜産は初期投資がかかりすぎるし、果樹はお金になるまでに時間がかかるため、必然的にそこから入る形になる。新規就農者には、農地と住居の確保をしてやる事が重要だと思う。

○私のところの主力産業は農業の商品作物。農業主体の町であるために、後継者問題、産業化、高齢化などが課題。廃業が多く、創業支援も課題となっている。自分たちだけでの課題解決は難しく、広域連携で行われる各事業の情報を持ち帰り、活用していきたいと考えている。

○日本経済は緩やかだが拡大しており、ここ数年は収入も順調に伸びている状況だが、鉄道事業としては赤字という状況。人口減少、少子高齢化、災害の増加などで厳しい状況が続くと思われる。人口減少時代への対応としては、沿線の方には駅周辺に住んでいただき、駅周辺の人口を増やしていく事を考えている。ホテル建設も考えられるが、そのためには泊まって楽しめる街の魅力作りが必要。又、駅を中核として周辺駅が観光拠点となるような取組も考えられる。久留米市の行う広域連携の中で、私たちもご協力できたらと思う。

○新商品開発事業や需要開拓事業、地場産品展示普及事業などに取り組んでいる。

今年、伝統的工芸品月間国民会議全国大会が福岡であり、久留米はサテライト会場になった。その中で聞いた話だが、藍染のハンカチを作るなど体験型の観光には、インバウンドのお客さんも多いとの事である。緋は織手の高齢化が進んでおり、来年に向けては、A1など導入した織機の自動化を考えている。

○この懇談会では4市2町をいかに活性化していくかということが課題になっていると思うが、どうすれば出来るか考えてみた。もし我々が農業につながるような開発支援を行えば、その成果は4市2町で広く使えるかもしれない。また、研修・人材育成事業は周辺どこからでも参加できる。今のトレンドはIoT。IoT講座を今年から開講している。例えば農業ハウス内の温度管理などに使える。バイオ事業部は県と市の補助を受けているので全県的な展開が出来る。健康食品がブームであり、大木町のきのこを始め生鮮食品に関する機能性表示食品開発などに関してもお手伝い出来ると思う。

○経済は緩やかな拡大傾向にあるとの事だが、特に九州北部地域はインバウンドによる効果が高いと分析されている。リピーターが多いという特徴もある。この中のどれだけの方に筑後地域を訪れていただくかが課題となっている。協会としては東アジア、特に台湾を中心としたプロモーション活動に力を注いでいる。職員が訪れてのプロモーションもやっているが、台湾ではSNSで情報を得る人が多く、カリスマブロガーと呼ばれる人達の影響を受けやすいため、そういう方々を招聘して久留米の情報を発信してもらう取組もやっている。インバウンドは国の情勢やLCC就航などいろいろな要素で動き易く、先を読みにくい。どれくらいの方が何を求めてこの地域に

来るのか、どういう動きをしているのかなどの把握をして対策を打つ必要があるため、まずは調査を試みたいと考えている。

また、商工会議所と連携し筑後観光マッチングという事業をやっている。国内外の旅行会社に来てもらい、地域の果樹園やホテルなどとのマッチングを行う。何がニーズとしてあるか分からず、多方面からの参加をお願いしたいと思う。

○シティプロモーション、家具の振興、観光を3本柱として取り組んでいる。この3年は地方創生の交付金を活用し、東京などで市のプロモーションイベントをやっている。今後は家具の海外展開、また、産業観光を核としたインバウンドへの取組を進めていきたい。市単独での事業展開は難しく、広域で連携して取り組む必要性を感じている。

○この地域の雇用情勢だが、新規求人は増加傾向にあり、人手不足といわれているように、有効求人倍率は27ヶ月連続で1を超えている。全国で見ると1.64倍、福岡県が1.60倍、久留米は1.26倍。一方、新規求職者は減少傾向にあるが、45歳以上は前年同月比で見ると増加している。求人側には正社員としての採用をお願いしているが、正社員求人は約50%で、残りは非正規となっている。求職者支援として、介護職、看護職、保育や建設など人手が不足している分野での新規求職者の掘り起こしに取り組んでいる。新規学卒への期待は大きく、10月末時点での高校生の就職内定率は81.4%で、昨年同時期の77.3%を超えている。求人では基本的に年齢不問とするようお願いしており、高齢者を積極的に雇う事業所も増えてきている。

新規学卒の課題だが、就職状況はいいものの、早期離職者が多い。職業への理解不足や、事前のマッチング不足などが原因で、その対策に取り組んでいる。その辺りを踏まえ、久留米市と雇用対策協定を結び、若年者の就職促進、新規学卒者・フリーターの正規雇用化、子育て女性やひとり親家庭への就職支援、障がい者・生活保護受給者など生活困窮者への就労支援など、市と協力して推進している。

○福岡県の観光について、現状、課題、トレンドのお話をさせていただく。観光は産業としての裾野が広く、大きな経済波及効果を生み出せる。人口減少が進む中、観光振興で交流人口を増やす事で、地域に消費と雇用を生み出すことが出来る。県への海外からの入りこみ客数は過去5年で3.4倍に伸び、国全体の伸び率を上回っている。観光消費額も順調に増え、過去5年で5.4倍に増えているが、外国人一人当たりの消費額で見ると国の平均より5万円以上低い。その理由として、韓国からの客、クルーズ船で来る客は滞在日数が短いという事が考えられる。前は買い物目的の観光客が多かったが、今は体験型、思い出作りというのが増えている。県では都市部と農村部が近接している強みを生かし、観光農園や伝統工芸体験、サイクリングなど個人旅行者のニーズに応えられるようなプログラム開発を関係市町村と一緒に進めている。特に、サイクルツーリズムについては今年度から本格的に始めており、JRくるめ駅からうきはの道の駅までを福岡県の広域モデルルートのひとつとしてルート策定に取り組んでいる。観光は単独の市町村では解決しない。広域で施策を進めていく必要があると考えている。

○広域連携中枢都市圏ビジョンとは、即ち地方創生であるとの観点から意見を述べさせていただく。地方創生とは、地域経済の活性化や地域が抱えている課題の解決であり、書かれたビジョンの取組にはかかわっていきたい。産学官の連携強化も必要だと思う。いろいろある案件の中で、観光とか、まちづくり、ヘルスケアなどの分野で協力や提案が出来ると思う。ぜひご相談いただきたい。

○地域が活性化するにはどうしたら良いかということを日々考えている。そういった中で、課題のひとつは中小零細企業の事業承継問題。様々な業種で、後継者がいない、子どもが後を継がないといった話を聞く。人材をどうやって確保するか、その方がどのようにして経営を担えるようになるのか、場合によっては、それが出来なければ、どこと一緒に出来ればいいのか、様々な相

談が最近増えてきた。久留米は福岡と近いため、創業しようという人は福岡に行ってしまう。この辺りの特徴として豊かな自然がある。耳納北麓の果樹園など自然の恵みを生かした農業も盛んだ。我々は、そこで働く人達にどのようなサービスを提供できるかという事を考えている。地域が発展しないと、そこに人を呼び込めない。企画段階からいろいろ提案をさせていただいているつもりだが、足りない部分もある。ぜひ、ご意見をいただきたい。

○私の部署では交通のネットワークをつなげていく事で、地域や行政の皆様と、駅を中心にしたまちづくりの議論をさせていただきながら活性化に取り組んでいる。そのような中、今年11月から来年3月までトヨタ自動車と一緒にMAAS（マーズ）の実証実験を行っている。これは、ひとつのアプリで鉄道、バスだけでなくレンタサイクルや駐車場が検索出来たり、タクシーの予約や決済が出来たり、バスのフリー乗車券が発行出来たり、あるいは、ルート検索だけではなく、そこに来てもらうための街の情報や店舗情報を提供したりするもので、バスを含めた2次交通、デマンド交通をどうやっていくかといった部分も含め、決済までをひとつのアプリで完結するというものである。

○5点ほど報告させていただく。まず、今年度から体験型の観光開発を進めている。これまで久留米の“まち旅”と一緒にやってきたが、それとは別に、例えば「さとうきび狩りの体験」などを始めた。課題は料金設定や集客。高めに設定すると中々人が集まらない。2つ目はインスタ映えなどで降って湧いたような新たな観光資源が出てきた事。それまで目立たなかった市内の観光スポットが1年程前から急に注目を浴び、国内外から観光客が集まっている。そこからどう市内に誘導し、食事や買い物をしていただけるかを考えている。3つ目は広域連携。久大本線の関係や筑後川の関係などで日田市や久留米市などいろいろな連携事業をやっている。先ほど県から話のあったサイクルツーリズムなどに、期待をしながら取り組ませていただいている。4つ目はインバウンド。まだ海外からの観光客は少なく、前向きに、積極的に進めようという機運にまでは至っていない。交流会などやりながら、手探りで進めている。5つ目は観光のプロモーション活動。東京のアンテナショップには年7～8回邪魔したが、ぶどうや柿のブランド認知度は低く、九州でもぶどうを作っているんですか、という程度。長期的視点で発信を続けたい。また、数値目標は、以前は入り込み客数や宿泊者数などに置いていたが、今は観光消費額に置いている。まだまだ数字が低く、地域経済循環という話が良く出てくるが、観光といいながら目指すところはそこだと考えている。

○ご意見は盛り沢山の内容だった。お話をこれからまたお伺いしたいと思う情報をたくさんいただいた。まずは、コンパクト化を図らないといけない、広域が効果的である、そして観光、その中でもインバウンドが重要で、さらにそれを増やすためにはアフターコンベンション、体験型の取組が必要であるといったご意見があった。かたや人材育成、人材不足の問題も抱えている。では、どうしたらいいか。最終的な消費額を増やす、あるいは交流の人口を増やす、あるいは定住化を図っていく、こういう事が必要である。最先端のAI、IoTの活用というのも大きな武器になる。交流体験、情報、そしてさらにもう一步踏み込んで広域ビジョンの実施に向けた、提言を活かしたようなものを、ぜひ、小分科会でまとめていただければと思う。今日いただいた情報は全て活用させていただきたいと思う。

○次の議題だが、「平成30年度事業進捗状況及び平成31年度事業計画について」と「今後のスケジュールについて」を一括して事務局より説明願いたい。

## （2）連携事業について

### ②平成30年度事業進捗状況及び平成31年度事業計画について

●「資料3」1ページから3ページが当分科会関連の平成30年度事業進捗状況と平成31年度事業計画（案）の資料。事前送付のため詳細な説明は省略。

(3) 今後のスケジュールについて

- 「資料4」により分科会、全体会等の今後の流れを説明。

【 委員からの意見・質問等 なし 】

3. 閉会

- 本日委員の皆様からいただいたご意見を参考に、31年度からのビジョン懇談会、小分科会、全体会も含め改めて事務局のほうで整理したい。皆様には改めて報告したい。  
これをもって、久留米広域連携中枢都市圏平成30年度ビジョン懇談会経済成長のけん引分科会を終了します。